

2022年度第3回幹事会・第1回評議委員会議事録

日時:2022年9月13日(火) 幹事会 :13時00分~14時00分
評議委員会:14時00分~16時00分

場所:北海道大学工学部 c214とWEB会議のハイブリット形式

出席者:(会長)岩崎、(幹事)野々村、平田、菱田、荒木弘、榊屋、沖、Fawcett、中別府、荒木喜(兼第95回大会委員長)、佐々木、佐瀬、杉本、村山、一柳、遠藤(兼第94回大会委員長)、宮城島(幹事会のみ)、二階堂、村井、池村、真木、荒木正(第95回大会委員)、(順不同、敬称略)

(評議委員)黒岩、小林、仁田坂、颯田、佐渡、篠原、高野、田村、金澤、久保、山口、愿山、権藤、澤村、高橋、古賀、佐藤、菅澤、田中、石黒、手島(順不同、敬称略)、飯田(事務局)

1.会長挨拶(岩崎)

2.報告事項

2.1 会長報告

岩崎会長から93回大会以降の物故会員として、常脇恒一郎名誉会員(元日本遺伝学会会長、京都大学名誉教授、2022.8.28享年91歳)の報告があった。また、主にオーストラリアとの合同セミナーの企画を担当する「国際連携幹事」として、加納純子会員、二階堂雅人会員の就任報告があった。

2.2 国内庶務幹事報告

野々村幹事から、日本遺伝学会が関係する学術賞・研究助成(2021)について、持田記念学術賞、育志賞、東レ科学技術研究助成金、山田科学振興財団、コスモス国際賞、全て不採択との報告があった。

2.3 渉外庶務幹事報告

菱田幹事から生物科学学会連合に関連して、「学術の中長期研究戦略」に日本遺伝学会として単独では提案しないこと、また、次期代表選挙には岩崎博史会員を推薦することとなったと報告があった。また談話会(高知開催)の準備状況の説明があった。

2.4 会計幹事報告

北野幹事に代わり岩崎会長から2021年度会員数、2022年度会員数の説明があり、科研費「国際情報発信強化」は、2024年度まで年間390万の継続受給予定である旨説明された。

2.5 編集幹事報告

荒木弘之幹事からGGSの発行状況や採択率等の報告があった。また、シニア会員が中心となりBrief Reportの執筆が進められていると説明された。

2.6 企画・集会幹事報告

- 沖幹事から、今年のBP賞の投票方法、審査方法、総会での表彰に関して説明があった。
- Fawcett幹事から、台湾との学生交換について、94回遺伝学会大会(北海道)に台湾の学生1名がオンライン参加予定であると報告された。
- 荒木喜美次期大会委員長から、第95回大会(熊本)の準備状況について報告があった。

日程:令和5年9月6日(水)~9日(土)(最終日は市民公開講座)

会場:くまもと県民交流館パレア(最終日は熊本大学 本荘キャンパス)

2.7 将来計画幹事報告

杉本幹事から、遺伝学会会員の意識調査アンケートについて説明があり、HPにアンケートの報告を掲載したと報告された。

2.8 男女共同参画推進担当報告

一柳幹事から、94 回遺伝学会大会で企画している男女共同参画推進フォーラムの概要説明や参加の呼びかけがあった。

2.9 遺伝学普及・教育担当報告

- 村井幹事から、3/28 に開催した春の分科会と、8/17 に実施した青森県高等学校教育研究会理科部会へのオンライン講師派遣事業の報告があった。
- 二階堂幹事から、Asia-Pacific Genetics Seminar Series 第一回開催について報告があり、第 2 回開催についての説明があった。
- 二階堂幹事から、YBP 賞について説明があった。
- 二階堂幹事から、若手の会の発足経緯の説明があり、活動予算について条件付きで支援していくと報告があった。

2.10 広報担当、ホームページ編集報告

- 宮城島幹事に代わり岩崎会長から、8/28 に逝去された常脇恒一郎名誉会員の追悼文の準備と、8/4 より学会 HP の英語版が公開されていると報告があった。
- 岩崎会長から、2022 年度日本遺伝学会賞選考委員会について、今年度は木原賞 2 件、奨励賞 5 件の推薦があり、以下の会員に授与が決定したことが報告された。
木原賞：石野良純会員、小林一三会員
奨励賞：福田溪会員、藤泰子会員

2.11 シニア活性化

真木幹事から、遺伝学会版最終講義と題したワークショップを開催予定との説明があり、また、シニア会員4名で GGS の Brief Report の執筆勧誘と、70-80 代の会員に研究者人生についてのインタビューをしていると報告された。

2.12 岩崎会長から、大会抄録の著作権について説明があり、今後も現状維持の方針であることが説明された。

3.協議事項

- 2021 年の決算および 2023 年度の予算案が了承された。
- 沖企画・集会幹事より、BP 賞の副賞廃止の経緯が説明され了承された。
- 岩崎会長より、奨励賞の人数を現在 2 名までとしているところを 3 名までに変更したいとの説明があり、評議委員会です承され、総会に諮ることになった。
- 野々村国内庶務幹事より会則(運営規則)の3箇所(誤字、冊子廃止に伴う変更、入会申請方法)について総会で諮ると説明され了承された。

2022 年度日本遺伝学会編集委員・編集顧問合同会議議事概要

開催日時：2022 年 9 月 13 日(火)16 時 00 分～18 時 00 分

会議場所：北海道大学工学部 c214 と WEB のハイブリット形式

出席者：荒木弘之、榊屋啓志、岩崎博史、西原秀典、石井浩二郎、古賀章彦、平野博之、一柳健司、印南秀樹、石野良純、伊藤雅信、角谷徹仁、木村亮介、小林武彦、黒岩麻里、楠見淳子、真木寿治、二階堂雅人、野々村賢一、颯田葉子、澤村京一、田嶋敦、高橋文、田中秀逸、明石裕、Jeffrey Fawcett、権藤洋一、真木智子(編集局長)、(順不同、敬称略)、飯田愛(事務局)

議題

1. 昨年度報告

荒木編集長(編集幹事)より1年間の出版状況について資料を用いて報告があった。国外からの投稿が増え、投稿数は増加したが、掲載論文数はほぼ横ばいである。最初に西原委員がスクリーニングを行っているが、負担はかなりのものである。今後さらに増えるようであれば、

最初のスクリーニングにさらに人員を当てる必要がある。インパクトファクターは昨年よりも少し下がっている。昨年度の増加の一部は、Web of Scienceがadvanced onlineでの引用状況を反映させ出したためであると思われる。昨年、編集委員会により認められた Brief Report についても説明があり、担当の平野委員からは間も無く最初の論文が accept される予定との発言があった。

1. 論文発行状況

Volume 93

号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other	公開日
1	5	0	3	2	0	2018年07月13日
2	5	0	4	1	0	2018年09月15日
3	5	0	4	1	0	2018年10月30日
4	5	1	3	1	0	2018年11月10日
5	5	0	5	0	0	2018年12月22日
6	5	0	5	0	0	2018年01月19日

Volume 94

号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other	公開日
1	5	3	2	0	0	2019年04月09日
2	5	0	3	2	0	2019年04月27日
3	5	0	4	1	0	2019年07月27日
4	5	1	3	1	1 (erratum)	2019年10月30日
5	5	1	2	2	0	2019年12月10日
6	6	4	1	1	0	2020年01月30日

Volume 95

号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other	公開日
1	5	0	4	1	3(meeting report, corrigendum)	2020年04月22日
2	5	0	4	1	0	2020年07月08日
3	6	0	6	0	0	2020年08月27日
4	5	0	5	0	0	2020年10月23日
5	6	1	3	2	1(GGS Prize 2020)	2021年02月11日
6	5	0	4	1	0	2021年03月23日

Volume 96

号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other	公開日
1	5	0	5	0	0	2021年05月08日
2	6	0	6	0	1(Corrigendum)	2021年07月14日
3	6	0	5	1	0	2021年10月09日
4	5	1	2	2	0	2021年12月16日
5	6	3	1	1	1(GGS Prize 2021)	2022年02月23日
6	4	0	3	1	0	2022年04月21日

Volume 97

号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other	公開日
1	4	4	0	0	1(Preface to special review)	2022年06月04日

2	4	0	3	1	0	2022年07月16日
3						2022年09月

2. 論文投稿状況(8月31日現在)

	2021.9.1-2022.8.31	2020.9.1-2021.8.31 (参考)
総投稿論文数	169	93
採択	17	21
不採択	135	52
査読中	9	20
取下げ等その他	8	0
採択率	11.2%(17/152)	22.5%(21/73)

3. Impact factor

	IF	5-year IF
2021年	1.258	1.340
2020年	1.517	1.434
2019年	0.917	1.114
2018年	0.859	1.137
2017年	0.913	1.024
2016年	0.703	1.103
2015年	1.339	1.267

参考	Genes to Cells	2.300
	DNA Research	4.477
	J. Plant Research	3.000
	J. Biochem	3.241
	Cell Structure and Function	2.290

2. 協議 GGS PRIZE について

古賀委員より6編を最終候補とした経緯及び論文の内容の説明があった。審議の結果、3編を2022年度 GGS prize と決定した。

Title

Activity-dependent endocytosis of Wingless regulates synaptic plasticity in the Drosophila visual system

Authors

Hinata Kawamura, Satoko Hakeda-Suzuki, Takashi Suzuki*

Published in Genes & Genetic Systems 2020,95(5):235-247.

推薦理由

The paper reveals the molecular mechanism of Activity-dependent synaptic disassembly in Drosophila photoreceptor neurons, especially pondering on how synaptic stabilizing Wg signaling protein captured by the presynaptic photoreceptor neuron is regulated by the neuronal activity. Wg secretion is from the glial cells and it is not activity-dependent. Through a series of genetic and histological experiments, the paper concluded that neuronal activity is transmitted via calcium signaling to induce Wg endocytosis, which results in a decrease of the Wg signal inside the neuron, and thereby promotes presynaptic disassembly. The paper reveals how neuronal activity could regulate the synaptic

stabilizing signal and how these two signals could converge inside the neuronal cell to regulate the fundamental aspect of activity dependent synaptic plasticity.
[Masato Nikaido]

Title

Establishment of an “*in saccharo*” experimental system

Authors

Tetsushi Iida, Takehiko Kobayashi *

Published in *Genes & Genetic Systems* 2021,96(3):107-118.

推薦理由

This manuscript presents an interesting method to permit the cloning of multiple genes in the rDNA locus in budding yeast *Saccharomyces cerevisiae*. In the wild-type strains, the rDNA region is highly recombinogenic, but the authors used a certain genetic background to suppress recombination at the rDNA region to stabilize it. In this fashion, the yeast becomes a “test tube” (named “*in saccharo*”) for the biochemical functions of genes involved in complex reactions. The authors use RNA silencing genes from mammalian cells, which are absent in yeast, to test their system. There is one weakness which is the fact that there have already been methods developed for multi-cloning in yeast such as EasyClone by Jensen et al (2014). It would be better if the authors would have clearly argued the advantage of this system over preexistent methods.

[Hiroshi Iwasaki]

Title

The *Drosophila Neprilysin 4* gene is essential for sperm function following sperm transfer to females

Authors

Takashi Ohsako, Machi Shirakami, Kazuharu Oiwa, Kimihide Ibaraki, Timothy L. Karr, Masatoshi Tomaru, Rikako Sanuki, Toshiyuki Takano-Shimizu-Kouno*

Published in *Genes & Genetic Systems* 2021,96(4):177-186.

推薦理由

The paper is a follow-up study of the previous RNAi screening conducted by the same group, from which the Neprilysin 4 (Nep4) gene was initially identified as a male sterility gene (Ibaraki et al., 2021). The authors investigated 4 other Nep genes (Nep1, Nep2, Nep3, and Nep5) and showed that they are likely to be not involved in male sterility. They also analyzed and reported the detailed male sterility phenotypes of the Nep4 RNAi knockdown males and the Nep4 mutant males generated by the CRISPR/Cas9 system. The reported phenotypes are valuable and serve as a valid comparison to those of the mammalian homolog, Membrane metallo-endopeptidase-like 1 (Mme1).

[Aya Takahashi]

3. その他

荒木編集長より、以下の2点について意見照会があった。

- (1) Clarivate (Web of Science)よりJ-stage上の論文をAOPの段階で見るため、パスワードの照会がある。現在対応していないが、インパクトファクターを上げるためには対応すべきか？

大半の意見はパスワードを教えることには抵抗があり、対応しないものとした。

- (2) 将来的に現在のような号で括るような出版の仕方は必要か？

変更を考慮しても良いという意見が多く、今後対応していく。

日本遺伝学会第94回大会総会議事録

日時:2022年9月16日(金)14時30分～15時15分

場所:北海道大学工学部A会場工学部オープンホールとWEBのハイブリット形式

出席者 岩崎会長、幹事他152名

1. 議長選出

議長に貴島 祐治会員(北海道大学)、加藤 敦之会員(北海道大学)が選出された。

2. 遠藤大会委員長挨拶

3. 岩崎日本遺伝学会会長並びに報告(評議委員会議事録参照)

4. 議事

① 2021年度会計決算について

北野会計幹事から総会資料にもとづき説明がされた。また、加納純子会計監査から、新型コロナウイルス対策として、予め代表して鐘巻会員が伝票領収書等を確認し、5月9日にWEBにて会計監査を実施した結果、2021年度の会計は適正に行われている旨の報告があり、承認された。

② 2022年度予算案について

北野会計幹事から、総会資料にもとづき説明があり、予算通り承認された。

③ 日本遺伝学会会則の変更について

岩崎会長から、会則(運営規則)の3箇所(誤字、冊子廃止に伴う変更、入会申請方法)について説明があり、承認された。

④ 第96回大会について

岩崎会長から、評議委員会において、第96回大会で中国・四国地区(高知)で開催することが認められている旨の報告がされ、承認された。

⑤ 奨励賞の人数を現在2名までとしているところを3名まで可とする

岩崎会長から経緯の説明があり、承認された。

5. 第94回大会Young Best Poster(YBP)賞受賞者

有村親之介会員、小川雅文会員、柴山竜三郎会員、朴潤姫会員、細川竜聡会員がYBP賞を受賞したと発表された。

第94回大会Best Poster(BP)賞受賞候補者

赤瀬太地会員、稲井琴梨会員、越阪部晃永会員、梶谷卓也会員、岸野廉会員、牛小蛸会員、辻本怜会員、藤泰子会員、皮宏偉会員、牧野愛子会員、安田武嗣会員がBP賞受賞候補者として発表された。

6. 第95回大会委員長挨拶として、荒木次期大会委員長より第95回大会(熊本)は

令和5年9月6日(水)-8日(金)(最終日に公開市民講座)をくまもと県民交流館パレアにて開催予定と報告された。

日本遺伝学会木原賞、奨励賞授与式記録

総会終了後、木原賞受賞者(石野良純会員、小林一三会員)と奨励賞受賞者(福田溪会員、藤泰子会員)が表彰された。授賞式終了後に木原賞、奨励賞受賞講演が行われた。